

# 多良間村におけるヒトエグサ養殖指導

鳩間 用一

1. 課題名 ヒトエグサ養殖指導

2. 協力者 多良間村役場経済課

## 3. 概要

ヒトエグサ（地方名アーサ）は味噌汁や、すまし汁の具などに海の香りを楽しませる海藻として、豆腐とともに愛用されてきた。

宮古地区におけるヒトエグサ（アーサ）の生産は、これまで天然産に依存してきたことから絶対量が不足して安定供給体制がとれないことがネックとなっていた。

そこで、宮古支庁農林水産課では、広大な干潟を有する多良間島沿岸でヒトエグサの養殖はできないものかと可能性調査を含めて試験養殖を実施してきた。

昨年平成6年度は、小規模（養殖網数25枚）ではあるが、ある程度の種付けと養殖方法が確立でき、結果58kgの水揚げがあった。平成7年度は6年度の実績をふまえ、さらに水揚げ増量をめざし指導をおこなった。

## 4. 目的

多良間村におけるヒトエグサ養殖の技術確立

## 5. 到達目標

多良間島における天然採苗時期と本張り場所の選定

## 6. 器具、材料

古いモズク網（100枚）、鉄筋、縄

## 7. 活動方法

1カ月に1回のペースで多良間島に渡り、採苗、本張り、雑藻対策、収穫、販売方法等の指導をお

こなった。

## 8. 指導の経過

平成7年10月5～6日

特定区画漁業権（特区215号）にて採苗をおこなった。

9月18日……………40枚

10月5日……………10枚

10月6日……………45枚

採苗網は、昨年と同じようにベタ張りしたものが45枚、採苗場所を昨年よりも少し沖合に出して採苗したものが50枚、沖合に出した採苗網は天然にヒトエグサが生える層で網を張った。

平成7年11月21日

9月に採苗した網が緑色になったので、本張り作業をおこなった。

平成7年12月26日（火）

収穫の予定をたてていたのだが、葉体が4～5cm程にしか生長していなかったのと、ヒトエグサの葉先が黄色くなり、成熟した状態になっていたので収穫は断念した。また、種付けが薄い箇所でのらん藻の繁茂が目立った。

平成8年1月17日（木）

天然産ヒトエグサ収穫方法の検討をおこなった。

特区215号内の岩盤に繁茂する天然ヒトエグサをモズク収穫用ポンプで吸い込む方法を試してみた。東風の影響で収穫作業は難航を極めたが、結果は上々で20分で約4kgの収穫があった。

翌日は、養殖状況の確認をおこなった。

平成8年1月18日（金）

ヒトエグサ養殖の状況調査をおこなった。9月

に採苗した網は5 cm程度に伸びていたが、10月に採苗した網の伸び具合は悪かった。

種付けは全体的にばらつきが目立ち、種がついていないところでは12月とくらべて、らん藻が繁茂していた。

また、ほぐし機（旧式の脱穀機）の試験運転をおこなった。結果は上々で製品としてめざしていたふわっとした感じにほぐすことができた。しかし、回転数が速いのと、内刃が鋭いため、ヒトエグサのちぎれが多かった。これはほぐし機の改良が必要である。

また、種付けのばらつきは採苗時期の遅れが原因ではないかと考えられる。

平成8年2月5日～6日

前回指導した時よりも、9月に採苗した網はヒトエグサの葉体が生長しており、1月まで繁茂していた、らん藻が減少していた。

翌日、9:00から収穫を始めた。12:00までの約3時間で10枚の網から30kg程の収穫であった。

しかし、わずかながら、網にらん藻が混生していたために洗浄と選別は困難であった。

10月に採苗をした網からも順調に生育していた。

## 8. 結果と考察

今期は昨年度の経験をふまえ、養殖を実施したので昨年以上の水揚げが期待できるものと考えられる。（平成8年2月現在で累計約 kgの収穫している。）

しかし、今年は、採苗時期の遅れのためか、網についたヒトエグサのばらつきが目立ち、きちんと種がつかない箇所ではらん藻が繁茂し、収穫・加工作業時に苦労させられた。また、中古のモズク網を使用したのもその要因だと考えられる。このらん藻対策として採苗のばらつきをなくすことが考えられる。来年度はこのことについて次の2点を重要課題にあげ、指導してゆきたい。

- ① 9月の大潮の時期にあわせて採苗を行なう。
- ② ヒトエグサ養殖の先進地である恩納村漁協や中城漁協からノリ網を購入し、養殖を行なう。





鹽田的曬鹽架